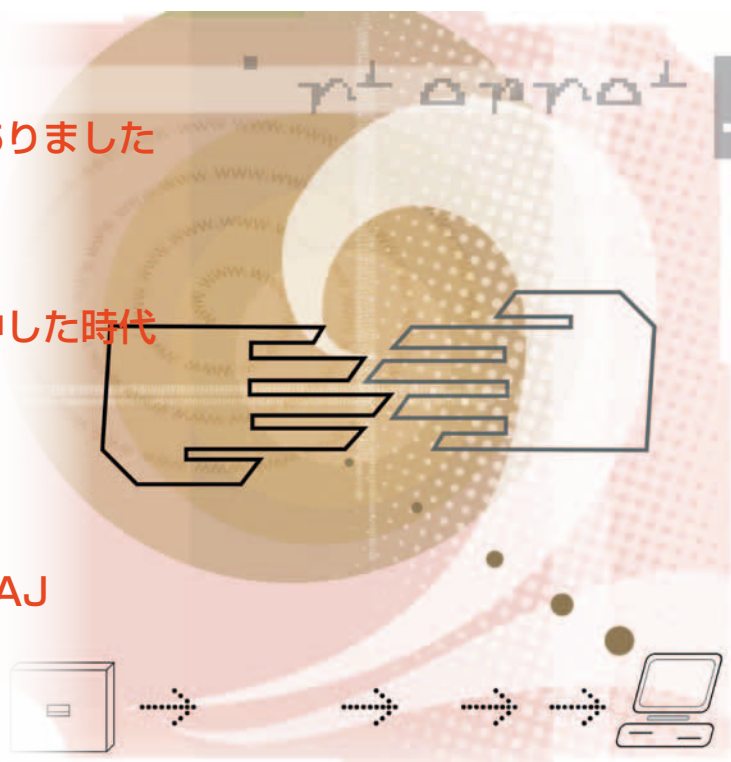


小特集

「あの時代」に想いをはせて

証言者達からのメッセージ

- ① そこにはいつも、先生の本がありました
—出版を通じてのご貢献—
- ② 情報化時代の幕開け
—みんながコンピュータに熱中した時代
からのメッセージ
- ③ 「情報処理」大変革の夜明け前
—石田編集長の誕生に向けて
- ④ INET91, ISOC, INTEROP, IAJ
—石田晴久先生とともに
- ⑤ 石田先生から受け継いだもの



編集にあたって

(独) 情報通信研究機構

放送大学

中川 晋一

川合 慧

石田晴久先生が急逝されて約2カ月経過しました。PC (パソコン)、インターネットという現代社会の基盤となる技術の開拓に関し、常に先頭に立たれ情報処理学会を先導してこられた先生のご功績は枚挙に暇がありません。

極論をお許しいただけるのであれば、1980年代から1990年代にかけて、石田先生の先導された「パソコン」

や「インターネット」は、電子情報通信や情報処理学での最先端課題であったスーパーコンピュータの演算性能の向上や、デジタル交換機やパケット通信の効率化といった話題から見て、学問的な新規性や独創性に富んだ分野ではなかったかもしれません。しかし、その頃から約20年を経過した現在、時代を席卷しているのはどちらだったか、すでに答えは出ていると思います。

先生のひとなつっこい笑顔（これに何度も騙されたとおっしゃる方々も多数いらっしゃるとお聞きしていますが）は、先鋭化した学問的な議論とは一線を画するものであり、どのような技術や事柄に対しても優しく育てようとなさる温かいまなざしではなかったでしょうか。

会誌「情報処理」を形式的な学会の連絡機能のみならず、新規技術の紹介の場として活用される形態にされたのも石田先生でした。石田編集長のもと、会誌「情報処理」も、新潟工科大にいらした青山先生ら、精力的に働く編集委員をそれまでの枠組みと異なる視点で採用され、ともかく動きのいい編集委員会を組織されて魅力ある誌面作りをされました。編集委員会では、石田先生のご逝去について通常のご功績の記事だけではなく、「ぜひ石田先生をお送りするにふさわしい特集を組みたい」という意見が出ました。議論の中で、「現在のバブル崩壊後の閉塞した社会状況に類似する、1990年代前半のバブル崩壊直後の社会状況が回復に向かったのは、1980年代から石田先生が仕込んでこられたパソコン、インターネット、UNIXが1990年代に爆発的に普及したからかもしれない。とすれば、これからの情報処理やネットワークを考える上で、石田先生の活躍された時代に関して何らかのまとめを必要としている」という結論になりました。石田先生の築いてくださった「あの時代」に関するまとめを、石田先生とともに歩まれた執筆者の皆様と呼びかけてご寄稿いただくことで、これから荒波を乗り越えていく我々情報処理学研究者の共通の意識とできればと、小特集を組もうということになったのです。以上のことから、編集方針として、会誌「情報処理」の変革にかかわられた皆様と、パソコン、UNIX、インターネット時代の創生

にかかわられた皆様と呼びかけることとなりました。

「情報処理の変革にかかわられた皆様」として、石田編集長の前任者（情報処理学会誌編集委員長）であられた諏訪基先生（現在、国立障害者リハビリテーションセンター研究所長）、青山幹雄先生（南山大学情報理工学部ソフトウェア工学科教授、元本誌編集委員）からご寄稿いただくことができました。

さらに、「パソコン、UNIX、インターネット時代の創生」にかかわられた皆様として、高橋徹様（元多摩美術大学教授、インターネット協会会長）、砂原秀樹先生（慶應義塾大学教授）、村井純先生（WIDE project 代表、慶應義塾大学教授）にお願いすることとなりました。また、「『情報処理』があまりにも多くのインターネット関連の記事を掲載するようになり、月刊 bit を廃刊に追い込んだのではないかと」という話もある」と編集委員会で申し上げたところ、松原仁先生（前会誌担当理事）が、当時の bit の編集長でいらした小山透様（(株)近代科学社、元 bit 誌編集長）から、「石田先生が翻訳されたカーニハン&リッチーの C 言語の発行部数のものすごさから、石田先生には本当に足を向けて寝られません。ぜひ寄稿させていただきたい」とのお申し出をいただきました。

このような執筆者の皆様からご寄稿いただいた記事によって構成された本小特集は、石田先生への尊敬と感謝の熱い思いに満ちたものとなりました。原稿依頼から、わずか1カ月の短い締切期間しか設定することができないという困難にもかかわらずご寄稿いただきました執筆者の皆様へ厚くお礼申し上げます。

温かいまなざしで次代を担う優秀な人材をお育てになり、やさしく「こき使い」、活躍へと導かれた、石田先生のお心を、会員諸氏とともに感じ、ぜひ今後の情報処理学発展への原動力とできればと思います。石田先生、ありがとうございました。

暑い夏の前の涼しげな紫陽花に寄せて

(平成 21 年 6 月 9 日)

